

アグリSCMシステムの農産物及び土壤中の放射性セシウム濃度(一部)

農家	地域	品目	検査日時	検査結果	検査方法 ^{※1}	土壤検査値 Bq/kg	検査機関 ^{※2}
1	伊達市	小松菜	7月23日	不検出	核種	2,781	同位体研究所 ^{※2}
2	伊達市	小松菜	9月21日	不検出	核種	1,779	同位体研究所
3	伊達市	小松菜	11月7日	不検出	核種	2,044	同位体研究所
4	伊達市	ほうれん草	11月7日	不検出	核種	2,418	同位体研究所
5	福島市	梨	8月23日	不検出	核種	2,338	同位体研究所
6	本宮市	キュウリ	10月28日	不検出	核種	2,659	日本大学
7	本宮市	ナス	10月28日	不検出	核種	4,984	日本大学
8	本宮市	キュウリ	7月23日	不検出	核種	6,083	同位体研究所
9	本宮市	キュウリ	9月21日	不検出	核種	3,271	同位体研究所
10	須賀川市	キュウリ	11月7日	不検出	核種	2,476	同位体研究所
11	郡山市 ^{※3}	米[玄米]	8月23日	不検出	核種	3,580	同位体研究所

※1 厚生労働省「緊急時における食品の放射線測定マニュアル」に従い、ゲルマニウム半導体線スペクトロメーターによる核種検査。検出限界は1Bq/kg

※2 ゲルマニウム半導体検出器(CANBERRA社製GC3020)を使用

※3 契約農家でなく、EMを用いて米を栽培している農家

マクタアメニティ(株)が県の「民間等提案型放射性物質除去・低減技術実証事業」に応募し、採択されました。

福島県で10件の採択のうちのひとつとして、有機質を使った影響低減化の提案が選出されました。提案者はマクタアメニティ(株)で、提案技術名は「微生物改良資材(EM)、EM発酵肥料・堆肥を活用した土壤改良により、放射性物質の作物への吸収を抑制する技術」。微生物資材としては本件のみでした。

アグリSCMシステムを支える有機循環と土壤管理技術

契約農家は土壤管理に良質の有機質を使う農法を行っています。ですから発酵有機質の品質と投入量が問題です。品質においては適切な管理が重要です。投入量も重要な要因で、一定量以上に入れるとコストと品質に影響がでます。アグリSCMシステムでは一定の条件下(栽培品目と土壤条件、過去の生産実績など)での必要量がわかります。そのため、品質の均質化が図られます。ブランド化する以上、質の責任と安定供給は最低条件です。

1年前からマクタアメニティの指導で栽培を始めた農家があり、全体の半分をマクタアメニティの指導の方法で、残り半分は従来の慣行栽培でやることになり、通常の有機栽培では無理でも、この農法の場合は土壌づくりからの技術指導で、たった1年で結果を出すことができました。説明をしてくれました。ブランドを名乗る以上1年目の栽培だから3年目の栽培だからと言ってられません。品質の差をさわめて少なくし、ほぼ均質で高水準の農産物を提供しています。

マクタアメニティの農法の堆肥は主として、現在のところ畜産廃棄物や食品残渣を使用します。堆肥も何を原料としてどこで使っているか